

第9期計画の基本理念（案）

2000年にスタートした介護保険制度は20年余りが経過しました。この間、少子高齢化は大きく進み、要支援・要介護認定者やひとり暮らし高齢者、認知症高齢者など、様々な支援を必要とする高齢者は増えています。その一方で、介護保険サービス提供事業者の増加、NPO・ボランティアなど、高齢者を支える人は増えており、社会全体で高齢者を支える仕組みは日々深化しています。

団塊の世代が2025年に後期高齢期を迎えますが、2025年以降も高齢化は進み、特に支援を必要とする85歳以上高齢者は2060年まで増加すると見込まれています。

本市も例外ではなく、今後、中長期にわたって高齢化が進み、支援を必要とする高齢者もこれまで以上に大きく増えていくと考えられます。

本市は、介護予防や福祉活動など、地域を支える人が多く、市民・団体・事業者・行政が一緒になってまちづくりを進めてきました。その中には元気で活躍する高齢者も多く含まれます。

「支える側」と「支えられる側」に分かれるのではなく、つながりと役割をもちながら活躍できる地域共生社会が日々、進んでいる状況ですが、さらに深化していく必要があります。

本計画では2040年のめざすべき都市の将来像をイメージに据え、市民全員で本市の強みを生かしながら、高齢化が進んでも誰もが安心して住み続けられるまちづくりを一步一步進めていきます。

めざすべき都市の将来像イメージ(2040年の姿)(最終アウトカム)

(案1) 共に支えあう地域 助けあう人々 いつまでも住みたい

優しさ溢れる 心の街 和泉



基本目標(中間アウトカム)

①健康寿命の延伸、重度化防止に向けた取り組みの推進

いくつになっても心身ともに自立し、健やかで質の高い生活を送ることができる。
(健康寿命の延伸)

②高齢者の尊厳に配慮したケア対策の推進

高齢者の尊厳と人権が尊重され、また、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる。

③地域におけるネットワークの構築

多様な機関・団体等がつながり、密に連携しながら高齢者を支える体制があり、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく生活することができる。

④生きがい・安心のある暮らしの実現

高齢者一人ひとりの「興味」「関心」「意欲」に応じた様々な場や機会が充実し、高齢者が生きがいをもって生活している。

⑤介護サービスの質の向上と介護保険事業の適正な運営

要介護状態等になっても、高齢者一人ひとりの生活実態に沿った、自立支援のためのケアマネジメントやサービスを受けることができる

めざすべき都市の将来像イメージ案(2040年の姿)(最終アウトカム)

案1 共に支えあう地域 助けあう人々 いつまでも住みたい
優しさ溢れる 心の街 和泉

案2 支えあう地域 助け合う人々 豊かな心の街 和泉

案3 元気なうちから健康に心がけ生きがいを持ち 住み慣れた地域で支え
あいながら自分らしい暮らしを続けられるまち 和泉